



# 自然観察

No. 95  
2010  
6月

## 目 次

・ 2010年総会終わる	2009年度決算報告	2
・	2010年予算	3
・ 会計からのお願い		3
・ 2010年 講演会講演概要		4
・ ヒグマを知ろう	第一回 食性	6
・ 参加者の声		8
・ フィールドニュース	栗山町、白老町、旭川市、釧路市	9
・ ウォッチングレポート		11
・ 2010年度・2011年度北海道自然観察協議会理事・監事		13
・ ウォッチングプラン		14
・ 第21回滝野の自然に親しむ集いへご協力を		15
・ 事務局だより・理事会だより		16
・ 連絡先他		16



カワユエンレイソウ

2010/ 5/ 18 北見市

## 2 0 1 0 年 度 総 会 終 わ る

2010年度北海道自然観察協議会総会は4月10日(土)に札幌エルプラザ環境研修室で開催されました。総会では新年度の事業計画、予算、2010～2011年度理事が決定されました。引き続き講演会が行われました。講師は北海道大学大学院 農学研究院の松島肇氏、演題は「身近に残された自然地の保全と利用～石狩海岸と勇払原野を事例に～」でした。

年度末で確定した決算報告・監査報告、2010年度予算、理事名簿を掲載します。

2009年度事業報告、2010年度事業計画については、会報94号をご参照ください。

### 2 0 0 9 年 度 決 算 報 告

#### 収入の部

単位(円)

項 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
前年度繰越	587,267	587,267	0	
会 費	438,000	487,500	49,500	会員365名(新会員2名)
雑 収 入	600	50,567	49,967	利子 寄付金
観 察 会 参 加 料	70,000	55,166	-14,834	観察会保険料・資料代
合 計	1,095,867	1,180,500	84,633	

#### 支出の部

単位(円)

項 目	予算額	決算額	増 減	摘 要	
事務費	通 信 費	60,000	50,475	-9,525	切手代 はがき 郵送費
	消 耗 品 費	30,000	18,436	-11,564	用紙 印刷代 コピー代
	会 議 費	50,000	16,235	-33,765	理事会会場費
	小 計	140,000	85,146	-54,854	
会報費	会報郵送費	130,000	117,680	-12,320	会報4回発行(クロネコメール便)
	印 刷 代	230,000	183,160	-46,840	印刷代(会報91～94号)
	ラ ベ ル 代	4,000	4,200	200	会報発送用ラベル
	封筒印刷代	30,000	26,000	-4,000	角2封筒2000枚
	原稿謝礼代	5,000	0	-5,000	
	通 信 費	15,000	11,570	-3,430	編集部関係の通信費
	消 耗 品 費	10,000	1,220	-8,780	セロテープ
	小 計	424,000	343,830	-80,170	
活動費	観 察 会 費	70,000	41,710	-28,290	参加者保険、配布材料、通信費
	総会開催費	50,000	35,012	-14,988	会場使用料 講師謝礼
	全道研修費	50,000	37,548	-12,452	講師謝礼 会場使用料 資料代
	地方研修費	50,000	29,500	-20,500	講師謝礼 会場使用料 資料代
	指導員講習会	0	0	0	
	救命救急講習	16,000	14,130	-1,870	講師派遣費 会場使用料 講師駐車代
	用 具 費	20,000	0	-20,000	
	雑 費	12,000	9,030	-2,970	森と自然を守る会 盗掘防止ネットワーク
小 計	268,000	166,930	-101,070		
30周年積立	30,000	30,000	0		
予 備 費	233,867	0	-233,867		
合 計	1,095,867	625,906	-469,961		

#### 収支残高

収入合計 1,180,500 円 - 支出合計 625,906 円 = 554,594 円 (2010年度へ繰越)

#### 30周年特別会計

2008年度繰越金	660,000円
2009年度積立金	30,000円
<hr/>	
2009年度繰越金	690,000円

2010年4月10日

以上の通り決算報告いたします。

会計

畑中 高輔

会計

小川 祐美

2010年4月10日

上記に関する監査を実施し、適正であることを認めます。

監事

伊達 佐康

監事

萩田 雄輔

## 2010年度 予算

### 収入の部

単位(円)

項 目	決算額	予算額	増 減	摘 要
前年度繰越	587,267	554,594	-32,673	
会 費	487,500	423,000	-64,500	会員340名
雑 収入	50,567	500	-50,067	利子
観 察 会 参 加 料	55,166	70,000	14,834	観察会保険料 資料代
合 計	1,180,500	1,048,094	-132,406	

### 支出の部

単位(円)

項 目	決算額	予算額	増 減	摘 要	
事務費	通 信 費	50,475	60,000	9,525	切手代 はがき 郵送費
	消 耗 品 費	18,436	30,000	11,564	用紙 印刷代 コピー代
	会 議 費	16,235	40,000	23,765	理事会会場費
	小 計	85,146	130,000	44,854	
会報費	会報郵送費	117,680	130,000	12,320	会報4回発行(クロネコメール便)
	印 刷 代	183,160	210,000	26,840	印刷所へ支払い
	ラ ベ ル 代	4,200	4,500	300	会報郵送用ラベル
	封筒印刷代	26,000	30,000	4,000	封筒(角2、角3)
	原稿謝礼代	0	5,000	5,000	
	通 信 費	11,570	15,000	3,430	編集部関係の通信費
	消 耗 品 費	1,220	10,000	8,780	セロテープ 用紙
	小 計	343,830	404,500	60,670	
活動費	観 察 会 費	41,710	70,000	28,290	参加者保険料・配布資料・通信費
	総会開催費	35,012	50,000	14,988	会場使用料 講師謝礼
	全道研修費	37,548	60,000	22,452	講師謝礼 会場使用料
	地方研修費	29,500	40,000	10,500	講師謝礼 会場使用料
	指導員講習会	0	0	0	
	救命救急講習	14,130	16,000	1,870	講師派遣費 会場使用料
	用 具 費	0	20,000	20,000	
	雑 費	9,030	12,000	2,970	森と自然を守る会 盗掘防止ネットワーク
小 計	166,930	268,000	101,070		
30周年積立	30,000	30,000	0		
予 備 費	0	215,594	215,594		
合 計	625,906	1,048,094	422,188		

#### 収支残高

収入合計 1,048,094 円 - 支出合計 1,048,094 円 = 0 円

#### 30周年特別会計

2009年度繰越金	690,000円
2010年度積立金	30,000円
2011年度へ繰越	720,000円

## 会計からのお願い

### 会費の納入はお早めに

今年度(平成22年度)の会費納入状況は今のところ、会員の半数が納入されています。まだ納入されていない方は、3月発送の会報に同封した振込用紙で納入ください。

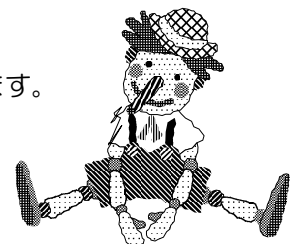
### 2年以上未納の方へのお知らせ

会報に同封して振込用紙を送りました。会費納入のご協力をお願いします。

★退会の申し出があるまでは北海道自然観察協議会の会員です。

届けが出されるまで、会費をお支払いいただきます。

★郵便振替口座 02710-1-8768 北海道自然観察協議会



会計 畑中 嘉輔 TEL 011-581-5439

4月10日定期総会に引き続き、講演会が開催されました。

講師は北海道大学大学院農学研究室の松島肇氏で、私たちの近くにある石狩海岸と勇払原野を例に、その現状と貴重さ、近くにあるための問題点などをわかりやすく講演していただきました。

今回は講師にお願いして講演の要旨を寄稿していただきました。当日参加できなかった会員の方々に、講演内容をお伝えし、今後の活動に役立てて頂きたいと思います。

(竹林 記)

#### 講師プロフィール

松島 肇 (まつしま はじめ) 氏

博士(農学) 北海道大学大学院 農学研究院  
花卉・緑地計画学研究室

1972年 福井県生まれ

1978年 千葉県に移り、1992年より北海道民となる

1996年 北海道大学農学部卒

2002年 北海道大学大学院農学研究科修了、  
同大学助手として勤務

2004年～2005年 マサチューセッツ大学アムハースト校  
客員研究員

2007年 北海道大学大学院農学研究院 助教



### 身近に残された自然地の保全と利用

—石狩海岸と勇払原野を事例に—

北海道大学大学院農学研究院 松島 肇

身近な自然とは、街の中の樹林地や都市公園など、居住地の近くに存在し、日常的に接している緑地、もしくは里地・里山など、居住地からやや離れていても半日や日帰りで気軽に行ける場所に存在する二次的な自然環境を指し、国立公園や国定公園など、わざわざ出掛けて行って接することのできる優れた自然環境の対語として使われます。

しかし、近代のエネルギー革命によるライフスタイルの変容や、高度経済成長期における国土の高密度な開発等により、身近な自然は大きく失われてきました。

特に、今回は北海道の自然景観を特徴づける、砂浜海岸と湿原に焦点を当てて、保全のために利用も必要であることを説明します。

北海道は全国の湿地面積の約86%の湿地を有していますが、都市近郊に残されながら保護の網がほとんどかかっていない勇払原野は、苫小牧・千歳・厚真・早来にまたがる湿原です。

一部、ウトナイ湖はラムサール条約登録湿地として鳥獣保護区等の規制がかけられていますが、美々川周辺と、勇払川と安平川に挟まれた地域には手つかずの湿原植生がまとまって残されているにも関わらず、何の保護もされていません。

特に勇払川と安平川に挟まれた地域は工場誘致を進める民間企業の所有地であるため、開発される危険性の高い地域です。

また、湿原は90年間で9割以上が消失していましたが、一方で森林は面積的には大きな減少はみられないものの、分断化によるコアエリアの大幅な消失が確認され、質的な劣化が確認されました。

一方、砂浜海岸に関して、北海道の砂浜海岸は全国的にみてもよく残されていますが、その保護状況は芳しくなく、全国平均で海岸延長の半分以上が自然公園区域に含まれているのに対し、北海道ではわずか35%の海岸にとどまり、ほとんどの砂浜海岸は自然公園区域外となっています。

砂浜海岸はその利用の容易さから開発の対象となり、風光明媚な自然海岸の代表と考えられている白砂青松の海岸でさえ、海岸砂丘上にクロマツを植林して作られた文化景観なのです。

つまり、本州の海岸には本来の意味での自然海岸はほとんど存在しませんが、開発の歴史が比較的浅い北海道では、札幌のような大都市近郊でさえ石狩海岸のような砂浜、海岸植生に覆われた砂丘、天然の海岸林が連続的に成帯構造残を維持しつつ残された砂浜海岸が存在するのです。しかし、近年はオフロード車の利用増加により、海岸砂丘上の植生の減少が著しく、保全対策が求められています。



写真1 背景の人工物は湿原の景観的価値を減少させる

では、これらの身近な自然地は保護すれば安泰なのでしょう。例えば湿原は平坦な景観構造から非常に見通しがよく、そのため遠景にある建物等がよく見えます。

勇払原野では、周囲に工業地帯があることから、工場やその煙突が見えますが、我々の研究では、湿原そのものを保全しても背後にこのような人工施設が見えることで、湿原が汚染されているように感じ、その景観的価値が低下することが明らかとなっています。

また、ラムサール条約登録湿地であり鳥獣保護区でもあるウトナイ湖では、観光客の集客を目的とした渡り鳥への餌やりが常態化しておりますが、

これを規制する法律がないため黙認されています。



写真2 オフロード車により切裂かれた海岸砂丘

海岸砂丘では、自然公園区域ですらオフロード車の乗入れが十分に規制されておらず、観光ルートとなっている海岸もあります。

また、鳥取砂丘では観光資源として砂漠の景観を維持するため、自然公園区域であっても植物の除草作業を行っております。海岸植物が雑草と見なされているのです。

日本のように温暖で湿潤な気候では、自然草原は成立しにくく、高山帯か海岸砂丘にしか成立しません。自然草原である海岸草原は固有の生態系として貴重なのです。

しかし、多くの人々は身近であるが故に海岸草原が貴重であると感じていません。自然公園の現状を見てもわかるように、ただ保護するだけでなく、きちんとその保全の重要性を理解させる取り組みが重要なのです。

身近な自然は多様性保全の観点からも、また利用機会の確保という観点からもその保全が求められます。そして、ただ保護するだけでなく、環境教育の場として積極的に利用し、自然を経験する場とすることが重要だと考えます。

今ある身近な自然を次世代にきちんと伝えるためにも、今後の北海道自然観察協議会の活動に期待しております。



講師を紹介



講演風景



北海道の海域

# ヒグマを知ろう

## 第一回 食性 —ヒトは餌でも敵でもない—

旭川市、NPO「もりねっと」

山本 牧

北海道にはヒグマがいます。「クマ」と聞くと、そのイメージはたいてい両極端に分かれます。「襲ってくる」「食われる」という凶暴な猛獣のイメージと、マスコットやマークになっている「めんこいクマちゃん」と。

自然観察指導員のように相当フィールドに出ている方たちでも、山に入るときは「クマに襲われないように」とけっこう気を遣っていますね。

でも、ちょっと考えてみてください。もしヒグマが人を餌と考え、襲っているとしたら…。2500頭余りと推定されている北海道のヒグマが毎月1人を襲うだけで、年間3万件の人身事故が発生するはず。そんなニュース聞いたことがありますか？

ヒグマが人間を積極的に襲うことはまずありません。まして、人を餌として連続的に襲うなんてことがあれば、それは大事件です。実は明治以降、複数の人が被害にあった例をよく調べると、ヒグマの行動を危険な方向にエスカレートさせてしまう人間側の要因がいくつも見つかります。

ヒグマによる人身事件に、もし人間の法律を当てはめると、故意犯である「殺人」ではなく「業務上過失致死傷」がほとんどです。最初から捕食したり、殺したりするのが目的ではなく、いくつもの要因が重なって「攻撃」が起きているのです。

ある意味、交通事故と似ています。だれも事故なんか起こしたくないのに、不幸な偶然や、おたがいの小さな過失が重なり、複合する中で、事故は起きます。ヒグマは強力な筋肉と鋭い牙や爪があるため、一瞬の攻撃が大きな被害をもたらすのです。

これも交通事故と同じですが、被害発生をゼロにすることはすごく難しい。ただ、危険行動を避けることで、問題発生リスクを小さくすることは可能です。人身被害だけではなく、農業被害も、根絶は難しいのですが、損害を減らしてゆく方法は考えられます。

このシリーズでは、数回に分けてヒグマの生態や生活史、被害防止策や野生動物との付き合い方などを考えてみます。ヒグマは「山に潜む凶暴な殺し屋」ではなく、「強大な力を持つ森の隣人」です。彼らにとって人間は、「敵」や「餌」ではなく、「面倒な侵入者」なのです。その辺が見え

てくると、ヒグマとの付き合い方も怖がるだけではなくなるでしょう。初回は、野生動物の生き方を決定づける「食べ物」のことからお話ししましょう。

◇ ◇

ヒグマは食肉目（ネコ目）クマ科に分類されませんが、肉食というよりは、「植物食に偏った雑食」と言えそうです。30年ほど前、私はヒグマの生態を調べる学生でしたが、当時、クマのフンを拾って洗って分類して調べると、重量比で98%くらいまでが植物質でした。2%の動物質はザリガニやアリ、そしてまれにシカの毛やネズミの骨でした。



写真1. 大雪山の高山帯でセリ科の草本を採食する母子グマ。まるで牧場の牛のようにも見える

季節の基本メニューはこうです。まず早春、冬眠から目覚めたヒグマは穴から歩き出して沢で雪解けの水を飲みます。山麓の日だまりで、ザゼンソウの根などを掘るのが最初の食事のようです。雪解けが進むにつれ、各種草本の新芽を食べます。

夏はフキが主食です。沢沿いのフキの群落に腰を下ろし、1カ所で数百本を食べ、大量のフンをします。エゾニュウなどのセリ科も好きです。

夏の終わりから秋、まだいろんな実がなる前はけっこう端境期です。堅くなった草をあきらめて根っこを掘ったり、農作物を荒らしたりするのこの時期です。

秋は冬眠に備え、食いだめをします。ミズナラのドングリやブナ、クルミの実、ヤマブドウ、コクワ（サルナシ）、木イチゴ類、高山ではガンコウランなどのフレップ類など。エネルギーを体内

に蓄え、皮下脂肪の厚さは10数センチにもなります。

ここ20年ほどで、北海道のヒグマの食性は大きく変わってきました。エゾシカが激増し、サケ類も上流まで遡上するようになってきました。狩猟や有害駆除で撃たれたシカの放置死体や自然死したシカをかなり豊富に食べています。秋の冬眠前、そして春先に雪に埋もれたシカは、厳しい冬の前後の貴重な食料です。元気なシカを襲って捕食する例も報告されています。

サケマスもかつては密漁防止のために、河口でウライ（梁）をかけて遡上させないようにしていましたが、現在はいくつかの川で上流まで遡上が見られます。明治以前ほどではないものの、サケを食べるヒグマも増えています。



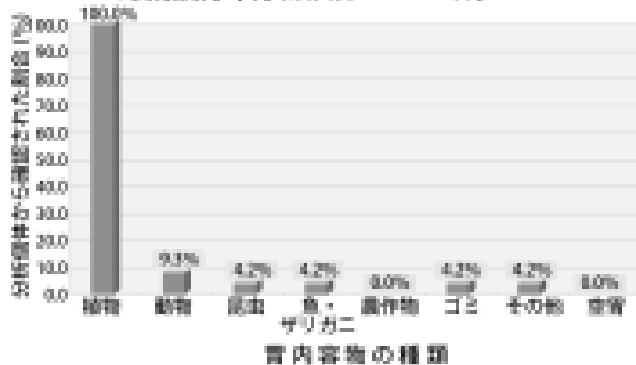
写真2. 知床半島で、遡上してきたカラフトマスをつまえた若いヒグマ

### ■食性の季節変化

北海道環境科学研究センター道南地区野生生物室が調べた、渡島半島の食性データがあります。数値は、調べたフンの何%から見つかったか、という「出現率」で表しています。出現率は食べた量よりも、食べた回数、言い換えると食べるための行動の努力量を示すと考えられます。

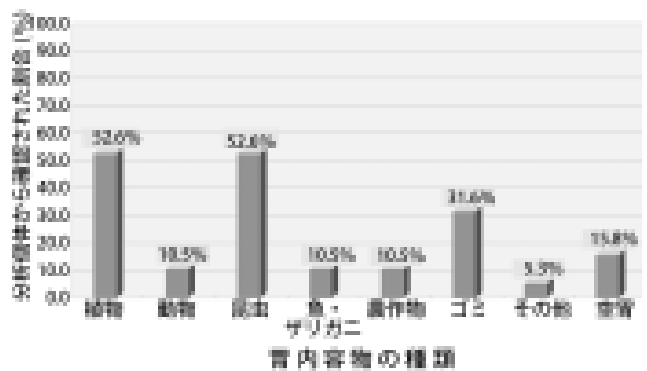
春の4-5月は植物質がほとんどで、中身はザゼンソウの根や草の新芽です。

#### ■4～5月捕獲分(分析個体=24頭)



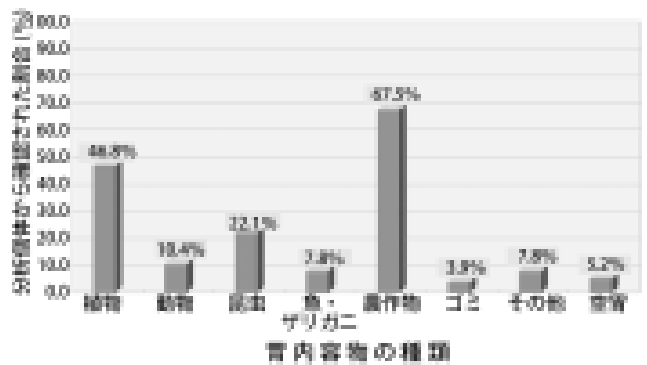
6-7月になると植物、昆虫、次いでゴミという順番になります。昆虫はこの時期、アリが多いのでしょうか。人家近くでのゴミあさりが見られることを示しています。

#### ■6～7月捕獲分(分析個体=19頭)



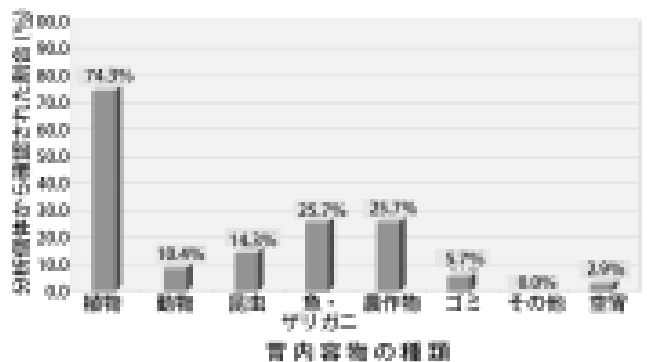
夏の8-9月は、本来の植物食以上に、農作物が高い値を示します。メロンやスイカ、道南では熟す前の水稲も食べます。農家が困るのは当然ですし、ヒグマにとっても害獣として駆除される危険が高まります。

#### ■8～9月捕獲分(分析個体=77頭)



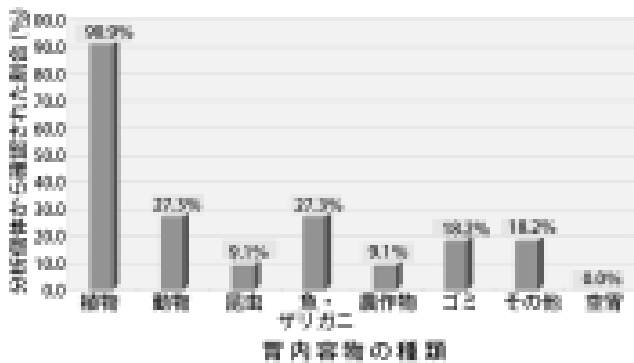
10月には植物質が高く、魚類と農作物が続きます。この時期の植物質は、フキではなく、木の実やベリー類が中心です。魚類は遡上してきたサケでしょうか。

#### ■10月捕獲分(分析個体=35頭)



11-12月は動物と魚類の出現が目を見まします。シカが冬眠前の重要な食べ物になっているようです。道東だともっとシカの出現率が上がるでしょう。

■ 11～12月捕獲分(分析個体=11頭)



道南という、人間との接点の多い土地なので、ほかの地域よりゴミや農作物の比率が高い可能性はありますが、最近のヒグマの「季節の献立」がうかがえます。予想以上に人里に近づいている、ということがわかります。

■ 開拓以前の食性

データが全くないので想像するしかないのですが、明治以前の北海道のヒグマは、自由に川でサケを捕り、平原でシカを追うことができたでしょう。それが、開拓の進展とともに、川を失い、平地を失い、山林にひっそりと住むようになりました。貴重な家畜だった羊や馬、牛を襲ったクマは徹底的に追われ、駆除され、1970年代以降、家畜の被害も減少していきます。

人身事故や家畜被害の対策として、北海道庁は長年、ヒグマの絶滅政策をとってきました。捕獲奨励金を出し、獲りやすい残雪期に頭数無制限の春グマ駆除制度を導入しました。1980年代、春グマ駆除が廃止されるまでに根室半島や留萌沿岸、積丹半島の個体群は絶滅、激減しました。家畜を襲って徹底的に追われたエゾオオカミと同じ道に入りかけたのです。

私が1970年代、平和な菜食主義者と思っていたヒグマの食性は、実はシカやサケを食べる機会を人間に奪われ、あつれきを避けるために山の草と

木の実だけを食べていた、隠遁者の姿だったのかもしれない。

その後、春グマ駆除制度がなくなり、狩猟者も減って、ヒグマはあまり人を恐れない様子うかがえます。山菜採りや釣りなどのレジャー人口が増え、ゴミを口にする機会も増えています。一方では森林伐採のため、実のなるミズナラやブナが減っています。道南の食性データで見ると、ヒグマが人里に近づき、人為的な餌を採る傾向は強まっています。

こう考えると、ヒグマはこの北海道という島で、人間活動の変化に対応して、苦勞しながらもたまたかに生き延びてきたようです。最も厳しい季節を穴にこもって切り抜ける冬眠という習性ととも、この食性の幅の広さ、柔軟さが人間との共存を可能にしたのでしょう。

明治末期に絶滅したオオカミと比較すると分かりやすいでしょう。オオカミは集団で生活し、冬も獲物を捕らないとなりません。明治半ばの大雪でエゾシカが激減し、家畜を襲うと、アメリカからストリキニーネという毒薬が導入されました。奨励金制度があったのはクマも同じです。高度な社会生活をもち、凄腕ハンターとして進化したオオカミは、環境の変化には対応しきれなかったのです。ヒグマは、単独生活、冬眠、雑食という生活様式だったのが幸いしました。

ヒグマの生息数は減少に歯止めがかかり、2500頭から3000頭と、微増かもしれません。絶滅寸前の危機は免れましたが、農作物被害は増える方向にあり、人身被害もなくなりません。山村に住む人々がヒグマの被害や恐怖に悩む事態は放置できません。かつて「ヒグマがいる限り、北海道は文明国の一部ではない」と言った人がいますが、私は逆に、ヒグマという大型動物とこの島で共存を果たすことこそ、より文明的なことだと思います。ヒグマを知るために、次回以降、もう少しおつきあいください。

参加者の声

北区 百合が原公園 ( ' 10/4/25)

北区 郷久保 美和子

今年初めての観察会は、我が家のすぐ近くの百合が原公園。近くでも散歩のときは、決まった道を歩くだけで植物、木についてはほとんどわかりませんから、このような機会に教えていただくと歩く楽しみが倍増です。

ヤマナラシ、シナノキ、ハルニレの花、イヌエンジュ、マンサク(シナマンサク)、ヤチダモ、サンゴミズキその他を観察しました。

寒い日だったので、小鳥も少し少ないのかなと思いましたが、ヒヨドリ、ルリビタキ、アオジ、ツグミ、モズ、アトリなどのかわいい姿も望遠鏡で見られました。



### 厳しいが温かい北海道の自然

栗山町 渡部 浩一

厳しい寒さも峠を乗り越え、北国の遅い春の気配が、ようやくこのログハウスの周りにも感じられるようになって来た。

この地に渡ってきて9年、慣れてきたとは云え、初老の身には決して過ごし易いとは云えない気候の地『北海道』である。

手造りの総天然芝の野球場を管理し、敷地内を流れる小川にホタルの幼虫を放ち、谷地蓆（ヤチブキ）やミズバショウを育てている。

自給自足のマネゴトとして、一反歩程の畑を耕し、土を育て、季節の野菜づくりを楽しみ、とれた野菜を内地の友人達に押し付け、心待ちにされるようになってからは、それを励みに鍬を振るっている。この畑は、本当に手塩に掛けて育てて来た土であり、愛しい土である。

少しばかりの雑木を伐り倒し、クマザサの根を掘りおこし、石ころを除去し、鍬やスコップをはじき返す固い土に、町の動物園から運んだ堆肥や落ち葉を鋤き込み、少しずつ作物を植えられる領域を拡げてきた。

敷地の周囲に植えた150本の桜と、50本の栗の実生苗も花を咲かせ実を付けるようになった。手製のバードフィーダーには、カラ類やカケス、ヒヨドリ、アカゲラなど十種程の野鳥達が訪れ、30個ほど設置した巣箱では、毎年新たな命を育む。

雪解けが進み、もうすぐ土が顔を出す。土を耕すことは、心を耕し、身体を耕し、仲間関係を耕すことだという。そんな友人達に助けられ、耕しながら育てながら日々を暮らしているが、育てられているのは自分自身なのだと思う。北海道の自然は、厳しいが温かい。

### 白老の自然

白老町 佐藤 康子

私の住んでいる白老町には、一年を通して自然と触れ合うことのできる「萩の里自然公園」があります。毎日散歩する人、四季を通して野草を撮り続ける人、等々それぞれの目的に応じてたくさんの方が利用しています。

春のヒメイチゲから始まり、シラネアオイ、ムラサキシキブ、センブリ等々秋までは私達の目を楽しませてくれます。冬は動物の足跡を見つけるのも楽しく、鹿には出会える機会が多いです。

しかし、春にはオオウバユリの花を食べてしまうので減少しています。鹿も生きるのに必死なのではないでしょうか？

白老には冬に美しい氷塊をつける滝が多くて、

2月14日に山岳会主催の「氷瀑ツアー」が開催され、結氷した美しい滝を堪能することができました。毎年白老山岳会が企画し、一般参加者を募集して行うツアーは大変人気で、今年も72名が参加しました。

暖冬といわれながらも今年は厳しい寒さが続き、ここ数年では一番きれいに凍り付き参加者も美しい氷のブルーカーテンに大満足でした。

このように白老は、飽きることなく一年中楽しめるところです。因みに私は白老山岳会の会員でもあります。



山北沢の滝

### 北海道の真ん中あたりで思うこと

旭川市 柳田 弘子

旭川に居住して30年あまりが過ぎていき、あたりまえに息をし、見て、感じて、安心していたことが当たり前できなくなっている、そんな不安を感じている。

蛙の大合唱が聞こえない・・・あの道端にあったエゾタンポポがいつ消えたのか・・・。

必ず逢えたはずのアリスイヤコアカゲラが今年は何年か来ないだろうか・・・。

「そんな時代もあったよね、なあんて言葉で片付けられないよね」と会話する。

旭川近郊在住の有志？で自然観察協議会旭川とネーミングして活動を始めたきっかけは、2007年の旭川の春光台公園での全道研修会だった。（旭川にはなかなかステキな人材がいらっしゃる 正直思いましたよ）

2008・2009年と旭川の嵐山公園にて二年に渡り、残雪期の3月、早春の5月、真夏の7月、そして秋の9月、虫こぶ観察会が8月。さらに昨年は10月に突哨山での「森を読む一樹林の成り立ちと人との関わりを知るワークショップ」地方研修会と多くの参加者と時間を共有できた。出会うたびに新しい感動をいただいた。

真っ白な旭川の雪の季節は来年までお預けだけど今年の旭川の観察会は何色に染まるのか・・・。

参加して見ましょう、賛歌しましょう・・・。

人それぞれ思いは違うけれど心で感動して体験したことは忘れることはない・・・。

体で体験し感動していい思いをいっぱいする、感覚で知ること、頭で考えることは何もない、大人も子供も同じかな？ だって少し前は誰でも子供だったよ、最初はみんな真っ白を染めていくんだね。

そうだね・・・ そうだね・・・



突哨山にて 2009. 10. 17

### わがフィールド紹介 釧路湿原

釧路市 福岡 淳一

釧路の街の私が住んでいるところから歩いて行くと日本最大の湿原、釧路湿原が広がっています。ここは国立公園ではないですが遙か彼方まで水の草原が広がっている湿地です。灌木のホザキシモツケや小さなハンノキ、そしてヨシ、スゲが遙か彼方まで続いています。近くには大小様々の「やちぼうず」がぼさぼさ頭で並んでいて大きなものでは5～60cmの高さになるものもあります。10cmの高さになるのにおおよそ10年かかると言われているのでこの高さになるには5～60年かかったと思われます。

ヨシは高さが2mにもなり見通しを悪くしています。成長は早くヨシの性質をうまく利用してタンチョウは子育てをします。春に生まれたヒナの成長と共にヨシも伸びヒナを外敵から見えにくくします。このヒナも生まれてから100日くらい（夏頃）で親とほぼ同じ大きさになり飛ぶ練習を始めます。そして秋も深まった頃人里に現れ畑に落ちたデントコーンをついばみます。なかにはまだ刈り取られていないデントコーン畑に現れついばんでいるものもあります。でも農家の方々はおおらかにおらが村のタンチョウを温かく見守っています。

このヨシとスゲの草原も、色とりどりの花たちに彩られる時期があります。春さきのキタミフクジュソウ、ミズバショウに始まり、エンコウソウ、エゾネコノメソウ次にミツガシワ、コンロンソウ、ヒメカイウ、木道のある温根内地区のミツガシワはとても見事に咲きます。それからホザキシモツケ、サワギキョウ等々意外なところで花畑が広が

っています。展望台から広い湿原、広がりのある風景を見るばかりでなく湿原の近くを歩いてみると小さな驚きがあります。是非とも歩いてみてください。



細岡展望台から見た釧路湿原  
広大な釧路湿原が眼下に広がり蛇行する釧路川がゆったりと流れています。

また、湿原を取り囲んでいる森にはいくつかの散策路が設けられています。残念ながら過去に伐採されたため大きな樹はなく樹齢数十年の木々が主体の若い森ですが自然林の気持ちのいい森となっています。そして森の中には縄文中期以降の堅穴住居の跡があり古代のロマンを感じます。湿原の歴史は最後の氷河期が終わり温暖による海面上昇で今の湿原が広がる場所は海となり、その後は沼、そして湿原となっていった訳ですが太古の時代から人々は住み続け自然からの恵みを享受してきました。

ところが釧路湿原は近年少しずつ農地開発や湿原の開発などにより小さくなってきています。又周辺の森の伐採や河川の直線化によると思われる降雨時の土砂の流入などが問題となり、湿原が乾燥化しハンノキの繁茂が著しいです。近い将来釧路湿原は水の草原から水の森へと変わるやもしれません。いま市民と行政がお互い協力しあい湿原の保全に取り組んでいます。この素晴らしい釧路湿原が未来の子供たちへ受けつなされるのを望みます。



釧路湿原の西側にあるキラコタン岬より  
森を抜けると湿原の中を流れる釧路川の支流チルワツナイ川が見られます。

旭川市 嵐山 '10年3月22日

天候 曇雪晴 掲載紙

## <早春の嵐山をたずねよう>

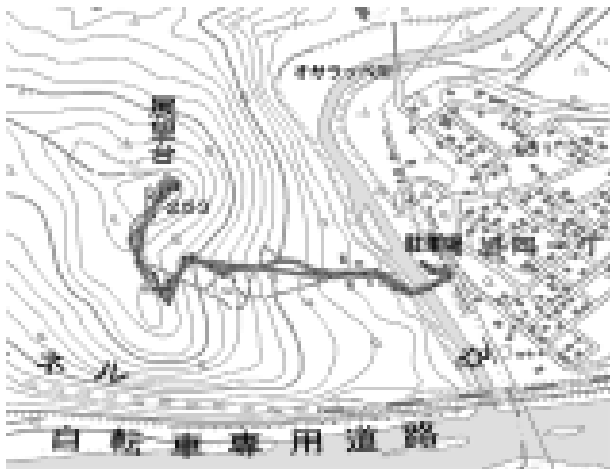
昨年借りたスノーシューは、プラスチック製でした。今年は数段高性能かつ高価格なスノーシューのおかげで、少し楽をして登行することができました。予定コースを変更し、ほぼ直登ルートを選択、嵐山の展望台まで着くことができました。予定では難しいかなと思っていたので嬉しい「誤算」でした。

ただ、当日は前夜からの悪天候・積雪の為、駐車場や付近で、参加関係車両の「立ち往生」が連続して発生。その救出のため観察会の開始が予定より40分近く遅れました。

体力の消耗から、観察会は息切れと共に始まるという珍しい幕開けとなりました。

ガガンボの仲間が雪上に。冬芽・足跡・食痕・エゾリスの休憩穴を観察。樹木の胸高直径を推定してもらい、実際に計測をしてみました。推定は意外とムズカシイようでした。

(柳田 和美 記)



展望台へのルート

苫小牧市 錦大沼 '10年3月28日

天候 晴 掲載紙 道新、朝日、読売、毎日、苫小牧民報

## <早春の散歩>

季節はずれの降雪、低温で雪融けも進まず、いまだ真冬。

昨日降った雪の上にキタキツネ、エゾユキウサギ、テン、エゾリス、ネズミなどの足跡がくっきり。参加者一同ジックリ観察。今年は例年になくエゾユキウサギの生息の多さに感激しながら予定したコースを進む。

カンジキをつけた一行は、2時間程度歩き東展望台に到着。目の前に樽前山が陽光をあびてくっきり現れ、一同は感嘆の声を発す。

昼食前、下山しながらケヤマハンノキの雄花やエゾキヌヤナギの花を観察し、錦大沼源流部で昼食とし、ワカサギの産卵が始まっていないことを確認した。

雪山の散策が初めてという参加者は、何を見ても楽しく、ぜひ次の機会も参加したい、1日楽しかったとの感想を述べられていた。

天気もよく、種々な自然との出会いに満足した観察会を無事終了した。

(菊地 綾子 記)

北区 北大構内 '10年4月24日

天候 小雨/晴 掲載紙

## <春の北大構内 ~遺跡保存庭園~>

遺跡の上に建つ大学は、全国的に珍しいので遺跡保存庭園の観察会をしました。小高い見通しのよい場所に竪穴住居が建てられたそうです。夏は草丈が高くなり人を寄せ付けません。

大木のヤチダモ、シンジュ、ポプラ、ハルニレ、ヤマグワ、ハンノキ、オニグルミやノイバラなどで想像がつかえません。

4~5家族が暮らした集落遺跡の穴が30ほど空いています。擦文人は家の柱が腐ってくると近くに家を建てて、その度に穴が増えたのだそうです。

平成ポプラ並木の観察で、以前のポプラ並木は現存していますかと心配そうに尋ねられました。ハルニレよりポプラ並木の人気が高いようです。

フキタンポポ、紫青色のキクザキイチゲ、キクバオウレン、アズマイチゲ、キバナノアマナ、チオノドクサ、ミズバショウ、マンサク、ハルニレ、カツラ、ヤナギなどの花を見ました。

(須田 節 記)

北区 百合が原公園 '10年4月25日

天候 曇 掲載紙

## <都市中の造成公園「百合が原公園」の

### 北方系の花と鳥たち>

札幌市の「環状夢のグリーンベルト構想」から、牧場経営や野菜栽培を行っていた農家の跡地が公園に生まれ変わりました。その名残としてサイロや道路沿いに植えられていたポプラ並木が残されています。

百合原池にマガモ、池の周りの林から池の縁へと出入りするルリビタキ、アオジ、モズ、ツグミが、林はキジバト、ウソ、ヒヨドリなどが観察できました。ロックガーデンの散策で塩基性植物や石灰岩植物について触れ、高山植物は生育地にあるのがよいことを伝えました。

チオノドクサ、シナマンサク、キバナセツブンソウ、クリスマスローズなど外来種の花が目立ちました。

歴史、鳥、植物に分け、3人でポイント毎に説明をしました。解散後に高齢の方から「充実した内容でした。」と言われ、肌寒さが少し解消されました。

(須田 節 記)

### 北見市 たんのかたくりの森 '10年5月3~6日

天候 快晴~曇 掲載紙 経済の伝書鳩

#### <分布東限近くのかたくり>

今年は低温が続き遅い春の訪れ。2日の下見でもわずかな開花数。2日から急上昇した気温のお蔭で、観察会にあわせたように一挙に開花。例年より開花数が多い状態となりました。

図書館で、端野カタクリの秘密や保護のこと、観察の注意などを理解して貰う。その後現地へ移動、キジムシロ、キタミフクジュソウ、ツルネコノメソウ、チシマネコノメソウ、アズマイチゲ、ミヤマスマレを見ながら群生地へ。

まず、足元の小さい葉や一年生(実生)を確認してから観察。初めての方も多く、開花したばかりの初々しいカタクリを見て歓声を上げていました。

フクジュソウとキタミフクジュソウの違いや、エゾエンゴサクの葉の多様性を実際に比較して興味津々でした。

子ども達も楽しんでいました。

陽気に誘われて1.2mほどのアオダイショウが出現、ぶら下げて見て貰うハプニングもありました。(そのときの参加者はラッキー?)

期間中雨にも遭わず無事終了、最大の功労者?は、観察会期間に焦点を合わせたような天候かもしれませぬ。(翌日は雨でした)

観察できた花(文中記載以外、期間中開花も含む) フキノトウ、エンレイソウ、ミヤマエンレイソウ、キタコブシ、ニリンソウ、セイヨウタンポポ、サップロスゲ、トクサ、ナニワズ

(竹林 正昭 記)



木の梢を見てください  
トドマツ林にはカタクリがありません

### 中央区 道庁・植物園 '10年5月4日

天候 快晴 掲載紙

#### <園内の早春の足音>

今年は4月に気温が上がらず、雨や強風の日が多く、春の花の咲き出しが相当遅れるのではと心配されましたが、5月に入って一気に気温が上がり、天気のよい日が続いたお蔭で、ほぼ例年並みに花々を観察することができました。

特に、キバナノアマナは丁度見ごろで、いたるところで大きな群落を作って私たちを出迎えてくれました。

他には、マルバマンサク、ヒュウガミズキ、トサミズキ、オオバクロモジなど植物園ならではの普段あまり目にしない花や、サンシュユ、ベニカエデなどの花々。いつもの年なら終わりかけのミズバショウ、エゾノリュウキンカなどなど。

初夏を思わせる気温と快晴の青空の下、気がつけば30分以上時間をオーバーして観察会を終えました。

(山形 誠一 記)



抜けるような青空のもと  
観察会を待つ参加者

### 手稲区 手稲本町市民の森 '10年5月9日

天候 曇 掲載紙

#### <自然歩道を散歩>

例年より寒く一週間ほど植物の開花は遅れていました。

咲いている花はミズバショウ、エゾエンゴサク、エンレイソウ、ネコノメソウ、キタコブシ、フッキソウなどでした。

ニリンソウ、レンプクソウ、ヒトリシズカ、マイヅルソウ、ツクバネソウ、イタヤカエデ、ハウチワカエデ、オオカメノキ、エゾニワトコなどは蕾の状態でした。

トドマツにつけられた熊の爪あと、自然歩道にはエゾシカの落とし物(フン)や足あと、またデート中のカラ類も観察できました。遠くから聴こえるアカゲラのドラミングは、心地よい森の音です。

キタコブシの花を手にとり、あまい香りに感激して観察会を終えることができました。

(高田 敏文 記)

中央区 円山公園 '10年5月9日

天候 曇 掲載紙

<春の円山公園 ~春に咲く花~>

日陰に入ると肌寒いくらいの曇り空の園内。

見ごろを迎えた桜を見ようと大勢の花見客が繰り出す中、去年と同じように混雑を避け、坂下グ

ランド周辺から太子堂、動物園下へと観察して回りました。

エゾヤマザクラ、キタコブシ、シロヤナギ、ブナなど、前半は木の花を中心に、なかでもカラマツの真っ赤な雌花は参加者の関心を引いていました。

動物園下からの路では、スマレサイシン、ネコノメソウ、セントウソウなどを観察。30分ほど予定時間をオーバーして解散しました。

(山形 誠一 記)

2010年度・2011年度 北海道自然観察協議会 理事・監事

今年は理事の改選期に当たり、4月10日の総会で新理事が選出されました。

2010. 6. 1

氏名	住所	職務
後藤 言行	小樽市	会長・研修部・HP管理G
竹林 正昭	北見市	副会長・編集部長・HP管理G
横山 武彦	江別市	副会長・観察部・HP管理G
有田 智彦	苫前郡羽幌町	研修部
安藤 忍	伊達市	研修部
池田 政明	札幌市北区	編集部
石田 哲也	札幌市手稲区	研修部・HP管理G
一戸 静夫	函館市	研修部
大表 章二	磯谷郡蘭越町	研修部
小川 祐美	小樽市	監察部会計・研修部
岡田 理江子	苫小牧市美園町	広報担当
北道 米雄	札幌市北区	研修部長
北本 毅	岩見沢市東山町	観察部
北山 政人	札幌市西区	滝野実行委員長
杉山 ルミ	夕張郡長沼町	研修部
須田 節	札幌市東区	事務局長・観察部・HP管理G
高田 敏文	札幌市手稲区	研修部
豊澤 勝弘	苫小牧市	研修部
中川 晃	千歳市文京	研修部
成毛 哲也	札幌市中央区	研修部
畑中 嘉輔	札幌市豊平区	事務局会計・観察部
原部 剛	旭川市	研修部
安田 秀子	石狩市	編集部
山形 誠一	札幌市中央区	観察部長・HP管理G
山本 牧	旭川市	総務
佐藤 佑一	札幌市清田区	監事・観察部
鈴木 克司	白老郡白老町	監事・観察部
畠山 俊雄	札幌市厚別区	顧問
松野 誠也	札幌市南区	顧問
富川 徹	江別市	顧問
大友 健	札幌市厚別区	顧問
佐々木 太一	上川郡当麻町	顧問
福地 郁子	札幌市南区	顧問

2010年度 観 察 会 ('10年6月19日～'10年9月12日)

※日程や下見の日時は連絡先指導員に確認してください。

年月日	テーマ	観察地	集合場所・時刻	交通機関	下見	連絡先
6月19日 (土)	初夏のカタクリの森 カタクリの実と初夏の花たち	北見市 たんのカタクリの森	北見市立端野図書館前 9:00集合～12:00解散 共催 たんのカタクリと森の会	北見バスターミナル 「美幌津別線」 8:20発 乗車 「屯田の杜公園」下車		竹林正昭 0157-56-3357
6月20日 (日)	「白樺山」観察会 低山で高山植物を観察しよう	蘭越町 白樺山	新見峠駐車場 10:00集合～14:00解散 昼食持参 要申し込み(連絡係まで) 登山靴又は長靴着用 小雨決行 共催 蘭越自然探検隊	公共交通機関なし 自家用車か 蘭越駅よりタクシー (空きがない場合は路肩に駐車)		大表章二 0136-57-5610
6月20日 (日)	もっと藻岩山 藻岩山散策(旭山記念公園～慈恵会)	札幌市中央区 ～南区 藻岩山	旭山記念公園駐車場 10:00集合～14:00 慈恵会駐車場で解散 昼食持参	地下鉄東西線 円山公園バスターミナル発 JRバス「旭山記念公園」行き		山形誠一 011-551-5481
6月26日 (土)	奇跡の自然海岸 ハマナス咲くオタネ浜	小樽市銭函4丁目 オタネ浜	新川河口(駐車スペースは広い) 10:00集合～12:00解散	手稲山口団地より徒歩15分 バスなし		後藤美智子 0134-29-3338
7月11日 (日)	「突硝山」観察会 夏の突硝山	旭川市 突硝山	「突硝山駐車場」(国道40号沿い「比布トンネル」手前) 9:30集合～11:30解散 小雨決行	「道北バス」旭川駅エスタ向かい 65番乗り場 「愛別行き」8:20発 「男山公園」8:50頃下車 (バスの時間は3月現在のものです)		原部 剛 080-6092-4347 問合せ19時以降
7月11日 (日)	「平岡公園」観察会 人工湿原の変わる様子を観よう	札幌市清田区 平岡公園	平岡公園第一駐車場 (厚別中央通沿い) 10:30集合～13:30解散 昼食持参	地下鉄東西線 大谷地駅発中央バス 「大66」ジャスコ平岡店行 「平岡5条3丁目下車」(前方左の緑地 歩道を200m, 徒歩5分)	当日 9:00～	佐藤佑一 011-881-5336
7月17日 (土)	親子観察会 星置川の生きものさがし	札幌市手稲区 星置川	JRほしみ駅北側駐車場 10:00集合～12:00解散 濡れてもいい靴 着替え	JRほしみ駅下車		横山武彦 011-387-4960
7月18日 (日)	「夏の円山公園」観察会 円山登山	札幌市中央区 円山公園	地下鉄東西線円山公園駅 1階バス待合所 9:00集合～12:00解散	地下鉄東西線円山公園駅下車		山形誠一 011-551-5481
7月24日 (土)	昆虫観察会 チョウ・トンボ・甲虫などの観察	苫小牧市 高岡森林公園	金太郎の池駐車場 13:00集合～15:00解散 3年生以上の小学生 15名 雨天中止 詳細問合せ	市バス 03番 苫小牧駅北口 12:04発 総合運動公園 12:07下車 徒歩15分		谷口勇五郎 0144-73-8912
7月31日 (土) ～ 8月1日 (日)	「第21回滝野の自然に親しむ集い」 滝野自然学園親子1泊2日観察会 夏休み野外学習(親子・子供特集)	札幌市南区 滝野自然学園	滝野自然学園(札幌市南区滝野106) 小中学生とその保護者 定員60名 参加費 4,000円/人(子ども大人同額) 資料を請求してください	地下鉄真駒内駅より 中央バス「滝野公園」行き 「アシリバツの滝」下車徒歩3分		畑中嘉輔 011-581-5439
住所・氏名・電話番号を記して、はがき・faxで資料請求してください。 062-0033 札幌市豊平区西岡3条13丁目 畑中嘉輔 資料を見て申込を						
8月8日 (日)	「夏の手稲山」観察会 登山道を山歩	札幌市手稲区金山 172 ロープウェイ運行 時は山頂往復	「手稲山ロープウェイ山麓駅」前 10:00集合～15:00頃解散 昼食、飲み物、雨具持参、※雨天中止	JRバス「手稲駅」又は地下鉄「宮の沢 駅」から JRバス [宮70] JR手稲駅南口經由 「手稲山ロープウェイ山麓駅」下車		高田敏文 011-684-0989
8月22日 (日)	「夏の錦大沼」観察会 森林浴をしよう	苫小牧市 錦大沼総合公園	錦大沼総合公園駐車場 8:50集合 9:00～14:00解散 雨天原則決行・強風日中止 昼食持参	自家用車のみ あれば双眼鏡・ルーペ・図鑑など持参	下見有り 要問合せ	佐々木昌治 0144-67-2022
8月28日 (土)	晩夏のカタクリの森 晩夏の花と気の早い実たち	北見市 たんのカタクリの森	北見市立端野図書館前 10:00集合～12:00解散 共催 たんのカタクリと森の会	北見バスターミナル 「美幌津別線」 8:20発乗車 「屯田の杜公園」下車		竹林正昭 0157-56-3357
8月29日 (日)	親子観察会 藻岩山の秋の虫とあそぼう どんなむしがいるか、みつけよう。	札幌市南区 藻岩山スキー場	定鉄バス「南34条西11丁目」バ ス停前 9:00集合～12:00 スキー場駐車場解散 雨天中止 ※小4以下は保護者同伴 帽子、水、 捕虫網持参	札幌駅バスターミナル7番乗り場 定鉄バス[54]「真駒内本町行」乗車、 または地下鉄南北線真駒内駅バスター ミナル、定鉄バス「南4」市立病院行 き乗車「南34条西11丁目」下 車。		須田 節 011-752-7217



【事務局だより】



☆ 必要と思われる情報配信とメールアドレス  
 北海道自然観察協議会会員のみなさまへ必要と思われる情報を、早くお知らせできるように作業を進めております。  
 事務局が管理しているメールアドレスは、古いものや変更されているものが多いためアドレスを事務局 zan00711@nifty.com にお知らせください。  
 インターネットに接続している方のみになります。

- ☆ 自然観察指導員講習会を来年度実施に向けて検討中です。紆余曲折があると思いますが、皆さまの助言やご協力をいただきながら進めますので、よろしくお願い申し上げます。
- ☆ 7/24~7/25端野自然愛好会共催の全道研修会「道北の特定植物群落7ヶ所を巡る」は定員になりました。参加費の一部が変更になりました。宿泊代8,550円、昼食弁当代840円、ガイド料1,000円、懇親会費500円で合計10,890円となります。マイクロバス代は3,000~3,500円の予定です。  
 当日参加費とバス代を別々に集めますのでつり銭の要らないようにお願いします。
- ☆ 観察会追加・変更の連絡は、観察部山形、広報担当岡田、事務局須田、HP担当竹林へお願いします。

【理事会だより】 <理事会議事録から抜粋>

- ☆ 第1回理事会 '10/6/1 札幌市エルプラザ
  - ◇ '10/4/10総会、講演会について
  - ◇ 理事選出の方向性について
  - ◇ 理事の役割分担
  - ◇ 第21回滝野の集いについて
  - ◇ 来年度の自然観察指導員講習会の取組みについて
  - ◇ 北海道自然観察協議会会員への情報発信について




コハコベ

北海道自然観察協議会のホームページ <http://www.noc-hokkaido.org/>

会費や寄付は	----->	郵便振替口座	02710-1-8768	北海道自然観察協議会
		----->	会 計	畑中 嘉輔 札幌市豊平区西岡3条13丁目12-13
				TEL/Fax 011-581-5439 E-mail aiai-h@f4.dion.ne.jp
観察会保険料は	----->	郵便振替口座	02770-9-34461	北海道自然観察協議会観察保険料
		----->	観察会担当会計	小川 祐美 小樽市
				TEL/Fax 0134-51-5216 E-mail streamy@estate.ocn.ne.jp
観察会報告書・資料は		観 察 部	山形 誠一	札幌市中央区双子山1丁目12-14
				TEL/Fax 011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp
研修会関係は	----->	研 修 部	北道 米雄	札幌市北区北10条西2丁目9-1 704号
				TEL 011-299-1343 E-mail kitamichi.yoneo@violet.plala.or.jp
退会、住所変更の連絡は	----->	事 務 局	須田 節	札幌市東区北40条東9丁目1-13
				TEL/Fax 011-752-7217 E-mail zan00711@nifty.com
<b>事故発生等緊急時は</b>	----->		アスカ・リスクマネジメント 担当本間氏	TEL 011-873-2655
投稿や原稿は	----->	編 集 部	竹林 正昭	北見市端野町3区378-3
		HP担当		TEL/Fax 0157-56-3357 E-mail hzx01204@nifty.com

表紙写真 竹林正昭



自然観察:2010年 6月 15日/第95号 年4回発行  
 (会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれています)  
 発 行 **北海道自然観察協議会**  
 編 集 北海道自然観察協議会編集部